

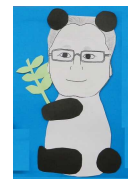


宮田中だより <2018年 7月号>

横浜市立宮田中学校 電話045-331-5288

長崎修学旅行を終えて ～クスノキ～

校長 上原 浩



平和学習を主眼に置いた長崎修学旅行は、今年度で3回目になります。2日目、一日班別自主行動に出発する生徒を見送った後、4年前に私的に訪れた際、時間の都合で行けなかった場所が宿泊地の近くにあったので、訪れてみることにしました。

そこは山王神社。バス通りから見上げると、左半分が欠けた鳥居が立っています。73年前の昭和20年（1945年）8月9日に投下された原爆によって爆風で笠石がねじまげられ、左半分が吹き飛ばされたものの奇跡的に右半分だけの一本柱の状態が残ったもので、「一本柱鳥居」や「片足鳥居」と呼ばれています。爆心地から800mの距離で、「220m/秒（時速800km!）の爆風」と「2000℃の熱線」にさらされたと推定されています。この付近の民家は全て全壊・全焼しました。

さらに石段を登って参道を進むと、境内手前の石段の両脇に「クスノキ」の大木が現れます。このクスノキも、爆風によって主幹の3分の1以上を失い、枝葉は吹き飛び、熱線により幹は黒焦げとなり、枯れ木同然となり、多くの小石や瓦礫が奥深くまでつきさりました。しかし、奇跡的に新芽を芽吹き、次第に樹勢を盛り返していき、当時の人々に生きる希望と勇気を与えたということです。現在は東西40メートル、南北25メートルの大樹冠を形成しています。風を受けて聞こえる葉音は、環境省の「残したい日本の音風景百選」にも選ばれています。ここを訪れる際には、是非、葉音を聞いてください。後日、知ったことですが、長崎出身の福山雅治さんが、この地を題材に曲を作っていました。曲名は「クスノキ」。2014年の大晦日、紅白歌合戦で長崎の小学生と共に歌ったとのこと。また、長崎原爆資料館や学生サークル、市民団体等がその種子から育てた「被爆クスノキ二世」を平和の象徴として国内外に贈る活動を行っているそうです。

我が魂は この土に根差し
決して朽ちずに 決して倒れずに
我はこの丘 この丘で生きる
幾百年越え 時代の風に吹かれ

片足鳥居と共に
人々の営みを
歓びを かなしみを
ただ見届けて

我が魂は 奪われはしない
この身折られど この身焼かれども
涼風も 爆風も
五月雨も 黒い雨も
ただ浴びて ただ受けて
ただ空を目指し

我が魂は この土に根差し
葉音で歌う 生命の叫びを



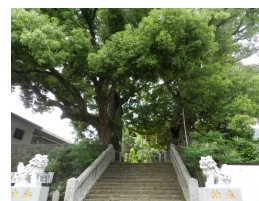
被爆直後の状況



被爆直後のクスノキ



現在の鳥居



現在のクスノキ

7月のおもな予定

7/9(月)～13(金)個別面談
20(金)夏季休業前最終授業日

※夏季休業中の 8/8(水)～12(日) は、
学校閉庁日とさせていただきます。

※夏季休業明け授業は
8/27(月)です。



8・9月のおもな予定

8/27(月)～31(金)教育相談

9/5(水)前期期末試験(社・国・技家)

6(木) // (理・数・音)

7(金) // (英・保体・学)

13(木)2年進路説明会

14(金)Fマリヲ食育授業(1年)

※年度当初予定の 10/2(火)「授業参観・学級懇談会」は、10/10(水)に変更となります。

「3年長崎修学旅行を終えて」～職員・生徒から～

3学年主任 松尾みのり

5月29日から31日の三日間、長崎に修学旅行に行っていました。いろいろなことがありましたが、全員無事に帰ってくることができました。出発直前に（現地の）トラブル発生で、食事場所が宿泊場所から離れたところになってしまい、「移動移動の3日間」でしたが、生徒たちがとても協力的で、混乱なく過ごすことができました。ケガの巧妙（？）で、タクシーに乗ったり、初日には、予定になかった稲佐山夜景鑑賞（夕暮れ程度で明るかったのですが）もできました。

2日目3日目の班別行動では、予定通りに回れずに苦労したり、途中でもめてしまったりと、スムーズに進まなかった班も多かったようですが、時間通りに全班戻ってくることができました。寝食を共にする中で、皆の絆がさらに深まったように思います。

旅行後、「平和」について各班でまとめる時間で、どの班も真剣に取り組んでいる姿に成長を感じました。最高学年としての今後の活動にも期待したいと思います。

○修学旅行に行っていて、良かったと思うことは、原爆について詳しく知れたことと、友達の意外なところが見えたことです。また、学代委員としても良い経験になったと思いました。リーダーとして学年・学級をまとめたり、班長・室長として話し合いに参加し、いろいろ決めていくという訓練になったと思います。当日は、自分が選択したことを忘れて、人に迷惑をかけてしまったり、ホテルの部屋でうるさくしてしまったりと失敗もありましたが、それを次につなげていくことが大切だと思います。たくさんの良い経験ができた三日間で

（実行委員長 3組 上原 津）

○私が一番印象に残ったことは、一日目の「さるくガイド」です。高度五百メートルの爆発で地面に三～四千度もの熱が伝わり、秒速三百メートルもの強風があったそうです。これは、日本で観測した最大の台風の三倍になります。この話を聞いて、私は言葉が出ないほど原爆の恐ろしさを感じました。また、永井隆の偉大さにも心を動かされました。自分が白血病の中で命がけで他の人の治療にあたりました。このような勇気ある偉大な人がいたから、今の私があることを再認識しました。

二・三日目の班別自主行動では、自分が副班長でありながら、班にいろいろ迷惑をかけてしまいました。が、班の人に助けられて、無事に終わることができました。私は、この経験から、仲間がいることの大切さを感じました。なので、仲間を大事にしようと思います。また、自分の役割に責任と意識をもって取り組まなければいけないと感じました。

（1組 玉城 翔）

○世界唯一の被爆国の中学生として、私たちは長崎の過去を知る必要があります。今回の修学旅行は、その過去について詳しく知ることができた非常に充実したものでした。

そこで私が一つ言いたいことがあります。戦争をしてはいけないということはみんなある程度知っていることです。しかし「死ぬ」という言葉をみなさん簡単に使っていませんか。原爆の被害を受けた人は、「生きてくても生きられなかった」ということを考えて、これからは言葉を発してほしいと思います。

（2組 新 大樹）

○長崎修学旅行は、平和と歴史に触れられるとても貴重な体験でした。「さるくガイド」の方々に貴重な話を聞かせていただき、調べてもわからないことをたくさん知ることができました。また、出島などの史跡を見ることができ、横浜では体験できないことばかりでした。公共機関を使うときは、しっかりマナーを守れたので良かったのですが、ホテルでのマナー・ルールがやや怪しい点もあったと思います。修学旅行での課題と経験をしっかり把握し、今後に活かしていきたいと思います。

（3組 成瀬 宇純）

